



生成A I と共に生活する時代の新たな教育課題

校 長 清水 一司

砧公園の桜が満開だと聞いて世田谷まで車を走らせました。不慣れな道もカーナビがあれば安心…のはずなのですが、気付けば目黒を走っていました。カーナビに登録されていない道で迷ったようです。その後、どうにか目的地に着いたものの、大幅に時間を無駄にしまいました。

「唾液アミラーゼは、食べ物に含まれるデンプンを分解し、消化されやすい状態にする。」

これは中学校理科で学習する内容です。このことについて、都内私立中学校の教員が宿題で調べるように指示したところ、250人いる生徒の半数を超える生徒が「食べ物に含まれるデンプンを分解し、胃で消化されやすい状態にする。」と回答したそうです。デンプンは胃で消化されることがないので、これは誤答です。疑問に思った教員が生徒から聞き取りをしたところ、多くの生徒が生成A I を使って表示された内容を丸写ししていたとのことでした。

この生徒たちの行動は、道に迷った私の行動と同じように思えます。即ち、「宿題の内容を対話型生成A I に入力する＝目的地をカーナビに入力する」⇒「生成A I が作った文章を丸写しする＝カーナビの指示に従って車を走らせる」⇒「誤答に気付かず提出する＝カーナビに無い道で迷う」。カーナビに従って車を走らせている私は、目的地までの位置関係や距離について考えるどころか、案内を疑うことすらありません。同じように、生成A I に表示された内容を丸写した生徒は、問題について考えるどころか、内容を疑うことすら無かったです。この生徒たちも私も、何も考えず情報を鵜呑みにした点で全く同じです。

カーナビが無い時代はどこへ行くのにも地図を確認し、混雑などを考慮し、幹線道路や主な交差点を頭に入れてから車を走らせていました。ところがカーナビの出現により、道を調べる必要も、覚える必要もなくなり、それと引き換えに地理を俯瞰的に捉える力や、最適な行程を考える力が衰えたように感じます。同じように、生成A I の出現により、生徒は資料を探す必要も、教科書を読み返す必要もなくなりました。しかしそれと引き換えに、課題にねばり強く取り組む力や、考える力が衰えるのではないかと心配になります。なぜなら、彼らは生成A I を活用して思考(学習)しているのではなく、単にネット情報のコピー&ペースト作業を繰り返しているだけだからです。

恥ずかしながら、道に迷った私はすぐさまカーナビでルートを再検索していました。自分で考える必要のない便利さには敵いません。これと同じように、これからの時代に生成A I の便利さは、私たちの生活に入り込む一方だと思えます。生成A I と共に生活する時代に、いかにして子どもたちの考える力を育むのか…。新たな教育課題ではないかと考えています。